

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570614313		
法人名	株式会社 うめの木園		
事業所名	グループホームうめの木園		
所在地	秋田県男鹿市五里合箱井字町谷田4-3		
自己評価作成日	令和2年9月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和2年10月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が自然体でゆっくり過ごせるような環境を心がけ、家庭的な雰囲気、一人ひとりの思いを受け止めたケアを心がけています。今年度は、コロナの為に地元中学生の体験学習やボランティア活動は中止となっています。ホーム内の行事も縮小して行い、感染予防に気をつけながら楽しめるよう工夫して行っています。(地元中石の梨狩りは実施し、楽しむ事ができました)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルスの影響で制限が多い中、感染防止対策を十分に行い、利用者の自立、機能維持に向けて活動的な生活が送れるよう支援しています。可能な範囲内で外出を企画して実行し、また、畑で野菜を育て、掃除、食事の準備等々、ホームでの暮らし方に利用者それぞれが役割を持ち、利用者の笑顔を引き出して楽しいと思って生活できるよう管理者をはじめとして職員が一丸となって取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・リビング・事務所の目のつく所へ掲示し、理念の共有を図っている。理念については、園内研修の5月・6月・7月に学び実践し、理念に沿ったケアができるように日々努めている。	ホーム理念が設定されていると共に、ユニット毎に理念を策定してケアの目標としています。自分達で考えたものであることから意識して取り組むことができ、実践状況を振り返る機会も設けています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、実施されていた地区祭典の子供会の神輿や7月中旬の中学生の体験学習は今年度はコロナの為、中止となっている。年末のなまはげ行事は、玄関先で対応してもらっている。	現状では自粛していますが、認知症カフェ、行事等で地域住民や中学生との交流は活発に行われています。周辺の散歩は続けており、近隣の方と挨拶を交わす等の日常の交流は行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	今年度は、認知症カフェはコロナの為中止している。地域住民の抱え込んでいる困り事等は、行政や専門職へ繋げるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施している。令和2年度については、国・市の指導により書類にて情報提供し、推進委員の方へ送付している。会議録を職員へ回覧して周知改善へ活かしている。玄関前にも公表している。	通常の開催時には参加者から意見や情報提供していただき、運営に反映できるよう取り組んでいます。現在はホームの状況を書面で報告し、情報を共有しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	直接窓口へ行き相談・報告するよう努めている。また、困難な利用者がいれば地域包括支援センターへ出向き相談・アドバイスを頂き、連絡を密にしている。	情報提供や相談等で随時連絡を取り、連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等適正化委員会を設置し、定期的に会議を開催している。身体拘束の園内研修を実施し、身体拘束をしないケアに努めている。	研修を行って身体拘束をしないケアに努めており、現在その事例はありません。言葉遣い等、不適切な行為については個々に対応しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について園内研修を実施し、虐待防止の徹底に努めている。また不適切ケアについても研修している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	7月の園内研修で実施し、職員全体で理解し活用出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時だけでなく解約時にも、利用者・家族が心配や不安にならないように十分に協議し、理解を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前に意見箱を設けている他、苦情のポスターも掲示し苦情の受付をして対応している。	現在は面会を制限していますが、家族とは信頼関係ができていて電話等で意見、要望を直接聞くことができおり、運営に反映させています。利用者の要望には家族にも確認し、可能な限り応えられるよう取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議には、できるだけ経営者にも参加してもらい、意見を聞いている。また必要に応じて職員とのヒヤリング等も行っている。	毎月の職員会議や管理者会議を通じて出された意見を改善事項に繋げる等、反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生はもちろん、勤務実態に合わせた資格取得や園外研修の参加を促しているが今年度の園外研修についてはコロナの影響により、ほとんど実施できていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内外の研修を計画的に行っている。園内研修は毎月行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	男鹿・南秋・潟上グループホーム連絡協議会主催の介護員・管理者・経営者の研修への参加や、株式会社のグループ内の管理者研修も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接のアセスメントだけでなく、施設見学や入居当日等コミュニケーションをとりながら受け止めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接のアセスメントだけでなく、施設見学や入居当日等コミュニケーションをとりながら受け止めるように努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で出来る限り共同で物事を行うようケアし、その中でお互い学んだり共感しながら生活している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ利用者の状況・状態報告を随時行っている。トラブル等発生したら、家族にも協力をお願いし協議している。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者から申し出があった時には電話等の交流がある。機会があればでかけるように努めている。また知人や友人・親戚が面会に来てくれ交流を楽しんでいたが、今はコロナの為、面会は状況に応じて対応している。	コロナ禍にあっても電話や手紙を通じて家族との関わりが途切れないよう、できることを考えて支援しています。訪問理美容は継続されており、利用者とは馴染みの間柄となっています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ他者と関わりが持てるようにアクティビティ等工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に合わせた対応に努めている。退去後も家族から相談を受けたり、入院先の相談員やケアマネと連絡を取ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で聞き取られた情報を担当者だけでなく、職員全体で把握出来るよう申し送りを行い、カンファレンス等でも話し合いがなされている。思いをくみ取りケアに活かしている。	日常会話や利用者の状態観察から意向をくみ取れるように努め、日誌に記録すると共に申し送りで職員間の共有を図っています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントだけでなく、入居後も利用者とコミュニケーションをとり、把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状況を日々把握して、その日の状況に応じた対応に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者・担当だけでなく出来るだけ多くの職員が計画作成に参加出来るよう会議を行っている。また家族・利用者の要望や思いを受け止めて意向をまとめ、ケアに反映させるよう計画作成に努めている。	ユニット会議でカンファレンスを行って毎月全員のモニタリングを行い、職員が意見を出し合って利用者、家族の意向が反映された介護計画を作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録だけでなく、利用者の変化等については支援経過記録や日誌等に記録して申し送りを行い、周知してケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用に関心が、必要に応じて協力を要請している。 (ボランティア、消防、警察、民生委員、医療機関等)		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認している。協力医の選択をお願いしているが、協力医を選択しない場合でも要望に合わせた対応をしている。	入居時に協力医に変更した利用者もおりますが、以前からの医療機関で継続受診している方もおります。通院には職員が対応し、家族に報告して情報を共有しています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携しており、訪問の際に情報や気づきを伝え、週1回相談・アドバイス・指示をもらい適切な受診・看護が受けられるように努めている。夜間対応もしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院機関と協力医の連携の中で施設での治療が可能な場合には、早期の退院に努めている。病院の相談員と連携をとり、相談・情報交換している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時や終末期にはその都度、家族と話し合い、場合によっては話し合いの場を設け医師より説明を受けている。看取りについても勉強会を実施している。	ホームでの看取りの事例はありませんが、指針を策定しており、希望に沿って対応できるよう努めています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の園内研修を受け実施して実践力が身に付くように努めている。消防の出前講習等で応急手当等について学び実践力を身に付けている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間想定避難訓練及び初期消火の訓練を地域住民と共に実施している。消防署員による出前講習にて「地震」「津波」「豪雨・台風」「土砂災害・風・水害」についての勉強会も行っている。	地域、消防と協力して訓練を行っており、市及び消防と連携を図る体制にあります。指定避難場所の設備については問題点もあることから、行政と連携し、課題の解決に向けた取り組みを期待します。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報・プライバシーについての園内研修を実施、職員の意識向上に努めている。	その時々や個々の性格に応じた対応ができるように利用者の情報を両ユニットで共有すると共に、言葉遣いについても日々のケアにおいて十分に配慮するように心がけています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が何でも話せる雰囲気や心を心がけてケアに努めている為、個々の思いを積極的に職員へ伝えられているアンケートを実施し、それを活かしている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日課に添った対応をするだけでなく、利用者の状況・職員の体制・気候等も考慮して利用者の意思確認をしながらケアしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別にケア等を行っている。移動美容院・理容でお店に出かけたのと同じ様にカット・パーマ・髪染め・散髪・顔そり等を行っている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立によっては下ごしらえから利用者に協力していただき、一緒に会話しながら楽しく食事している。配膳・下膳・食器拭き等も当番制で行ってくれている。	敷地内で野菜をつくり、山菜の処理を行い、利用者の持っている能力が十分に活かされています。利用者が役割を持って取り組めるように工夫し、調理の過程に参加することで楽しく食事できるよう支援しています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同系列の栄養士より献立を見ていただき、指導を受けている。食事量の不足な利用者には代替え食を提供している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけと就寝前の入れ歯洗浄を行っている。介助が必要な利用者には介助で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレで排泄できる様ケアしている。尿意の訴えない利用者でも日中・夜間トイレ誘導のケアを行い、オムツ使用は最小限にとどめている。	タイミングをみて誘導する等、トイレでの排泄を支援しています。布パンツの方もおり、チェック表を活用しながら現状の維持に努めています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェックを行うと共に、水分量の把握・起床時の牛乳の飲用・食事内での乳製品の摂取等に対応している。運動不足になりがちな冬期間は、ホーム内での運動を多く取りいれたりして対応している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間、入浴は行っていないが利用者がゆっくり入浴できるようケアしている。入浴嫌いの利用者へはその都度タイミングを見ながら声がけをし入浴に努めている。	利用者の好みや順番に配慮し、週2回の入浴を基本に支援しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は就寝時間の対応ではなく、利用者が眠れない時には、リビングでテレビを見たり会話する等対応している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時や定期薬の処方時にかかりつけ薬局の薬剤師より説明を受け、職員へも申し送り等で周知している。また気になる事や心配な事については相談に応じてもらっている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴にあわせて個々ができる事、できそうな事を見つけて役割をもつただき、生活意欲につながるようケアに努めている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園庭や園周辺を散歩して、地域住民とコミュニケーションがとれるようにしている。利用者が法事等を希望する時には家族に電話しお願いしている。また個別の外出やレク等で支援している。	周辺の散歩は日常的に行っており、敷地内の野菜や花のお世話をし気分転換が図られています。感染防止のために制限が多いものの梨狩りの機会が設けられ、外出を楽しみました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の承諾を得て、買い物時にはお金の入った財布を持って買い物を楽しんでいる。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話交流等利用者に応じた支援を行っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には、季節を取り入れた花や装飾品・写真を飾っている。また利用者の創作作品も飾り楽しめるように工夫している。	冬場には濡れたバスタオルで湿度調整をしています。玄関には観葉植物や鉢植えの花を置いて季節を感じることができるように配慮しており、水やりや掃除を利用者が行っています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファが多く設置され、玄関前には日光浴が出来る工夫をしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が家庭で使用したものを自由に持ち込まれている。思い出の品や写真・個人の創作作品等も飾られている。	家族が飾り物を持参して部屋づくりに協力している方や遺影を置いている方もおり、利用者それぞれが生活の場としての環境をつくっています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設はバリアフリーの認定を受けている。		